

令和6年度　～とちぎの未来を考える～　栃木県議会　県政ミーティング
開催結果報告書

令和7年2月12日

日向野義幸、中島宏

土屋晃子、池上正美、佐藤晴彦、沼田邦彦、

小林達也、板橋一好

大久保ゆみ、星雅人、小池篤史、小菅哲男、

五月女裕久彦

1 開催の目的

とちぎの未来を担う子どもたちに議会に対する関心を高め、理解を深めてもらうための主権者教育の一環となるよう実施するものである。

2 開催内容

(1) 第1回

ア 日 時 令和6年7月9日（火曜日）15時05分から15時50分まで

イ 場 所 県立さくら清修高等学校 体育館

ウ 出席者 県立さくら清修高等学校：生徒 2年生約200名

県議会：日向野義幸議長、中島宏副議長、土屋晃子議員、池上正美議員、
佐藤晴彦議員、沼田邦彦議員、小林達也議員、板橋一好議員

エ 内 容

(7) 開会

(i) プログラム

① 正副議長、出席議員自己紹介

正副議長はじめ出席議員が自己紹介を行った。

② 県議会の役割・取組の紹介

日向野議長から、県議会の役割や取組についての紹介を行った。

④ 意見交換

テーマ「私が描く栃木県の未来」について、生徒（計10名）が意見を発表した後、議員がコメントを述べた。その後、質疑応答を行った。

－発言概要－

発表１ 「私達の意見がもっと届く栃木県」

（生徒）

冷房の設置やトイレの様式化などの意見は、県まで届かないと実現は難しいと思います。今回のように、私達自身が意見交換できる機会をもっとつくっていただけると、生徒の政治への関心も高まると思います。

（日向野義幸議長）

議会には、請願・陳情という制度があり、皆さんの考えを提案できます。また、県には広聴の窓口もあります。さらに、県議会広報紙の「U-18高校生世代のギモン？もっとなるほど県議会」のコーナーでは、皆さんのような若い世代からの質問を受け付けていますので、皆さんの考えを伝えていただければと思います。

発表２ 「トイレ洋式化」

（生徒）

学校のトイレを全て洋式に統一してほしいと思います。女子トイレは混むことが多いのですが、効率的に使いえれば、休み時間も有効に使えると思います。

（中島宏副議長）

トイレの洋式化は、小中学校では約８割が洋式化していますが、高校は約５割にとどまっており、早めに進めたいと考えています。一方で、トイレの洋式化は県全体では相当な費用が必要となりますが、お預かりした税金を使って整備をするので時間がかかってしまうことをご理解ください。

発表３ 「栃木県の発展と少子高齢化対策」

（生徒）

宇都宮を中心に子どもから高齢者の方々までが楽しく暮らすことができ、また、那須や日光などの観光スポットに外国人観光客も今以上に来る栃木県にしたいです。

現在では、「都会に住みたい」と考える若者も多く、県内の少子高齢化が進んでしまいます。若者も住みたいと思えるようスポットや活動を増やしてほしいと考えています。

（沼田邦彦議員）

栃木県の魅力・実力を上げるため、とちぎ創生１５戦略（第２期）、とちぎ未来創造プランに基づき取組を進めています。県と地域で魅力を発掘し、県内外に発信することで、いつまでも住み続けたい栃木県をつくっていけるよう努めます。

発表４ 「栃木にたくさんの音楽を！」

（生徒）

栃木県にオーケストラなどを演奏できる大きなホールを増やして、人々に音楽をたくさん届けたいです。

大きなホールがつくれば音楽に触れることが増え、県外からも栃木県に集まり、更に栃木県が盛り上がると思います。

(土屋晃子議員)

公園や商店街の一角、子ども食堂、いきがいサロンなどで街角ピアノなどのようなフリースペースを増やしていくことで、幅広い世代の方が音楽に触れる機会も増えると思います。皆さんと一緒に、音楽のあふれる栃木として盛り上げていきたいと考えています。

発表5 「栃木の未来のためにできること」

(生徒)

県内の国公立大学に看護学部や薬学部を設置することで、他県の優秀な人材が集まり、県内の病院などで働くようになり、人手不足を改善させることができ、県内在住者を増やすことにつながると考えます。

(中島宏副議長)

皆さんが栃木県内で夢に向かって学べるようにしていかなければならないと考えています。また、医療、介護だけでなく、建設など様々な分野で人材が不足していますので、県内に住みながら東京で学ぶことができるような支援も考えたいと思います。

発表6 「みんなが平等に夢を描ける栃木県」

(生徒)

私の住んでいる塩谷町には電車が通っておらず、バスの本数や停留所も少ない状況です。休日のお出かけや通学は、車で送迎してもらっており、遊びなどにいくときも遠慮してしまいます。交通の便を良くしてもらいたいと思います。

(板橋一好議員)

国や県、市で協力してコミュニティバスやデマンドタクシーを運行するなどしていますが、市町間には格差があります。県では、地域公共交通計画をつくることで市町間の連携を図りながら、みんなで力を合わせて対応していきます。

発表7 「第4種踏切の解消」

(生徒)

遮断機と警報器のない第4種踏切で小学4年生の女の子が電車にはねられたというニュースを聞きました。それを受けて、栃木県内の第4種踏切の廃止・改良についての協議会が開かれたということです。

来年3月頃までに具体的な対策の方針を決めるということですが、結果が出るまでには時間がかかります。それまでの簡易的な対策の案として、ボランティアを募り、踏切に光る風車を設置することを提案します。

(小林達也議員)

現在、市や町、鉄道会社、国も一緒になって、今後の安全対策について検討しているところだと聞いています。一方で、第4種踏切がなくなってしまうと不便になってしまうという声もあることは事実なので、早急な対策も大切ですが、様々な声をしっかりと聞いて解決策を見出すことも重要です。

発表8 「交通の道」

(生徒)

地震、雨の侵食により、ひび割れた道路があります。また、長年使われ続けたために道路の白線がほとんど消えているところもあります。それらは、交通量の少ない田舎の道路で見られ、地域住民や遠路でそこを通る人のためにも改修工事が必要だと思います。

(小林達也議員)

道路は、国道は国、県道は県、市道は市というように管理者が異なっていますが、それぞれが連携して、維持・管理をしています。道路にできてしまった段差や傷みを見つけたときは、近くの議員にご家族を通して声をかけてもらえれば対応します。

発表9 「栃木の農業」

(生徒)

現在、栃木県は「いちご王国」として大いに宣伝し、いちごの品種改良や生産のために力を注いでいると感じます。そのため、他の農産物に対しての取組が希薄であるとも感じます。「いちご王国」としての地位を考慮するためならば、それは仕方のないことだと思いますが、栃木県の農業の未来を考えると、モノカルチャー経済はいかかなものかと思っています。

(池上正美議員)

栃木県は「稼げる農業」を目指してしまして、ブランド力向上が大切です。いちごは、50年以上生産量全国一で、力を入れて取り組んでいます。ほかにも、栃木県では、にら、なし、かんぴょう、生乳などの農産物の振興にも力を入れています。

発表10 「子どもも大人も笑顔な栃木県」

(生徒)

子どもがいる世帯への支援を更に充実させ、親の負担を軽減し、子どもの教育や心身のサポートを充実させることが必要です。さらに県外からの移住者への支援に力を入れ、住みやすい栃木県であることを発信することも重要です。そのことで、経済的理由などで子どもを持つことをあきらめている首都圏からの移住者を増加させることにつながり、さらに、県民、ひいては県全体の豊かさにつながると思います。

(佐藤晴彦議員)

子育ては、様々なサポートが求められており、結婚・出産なども含め様々な支援を行っているほか、移住希望者に対しては移住体験ツアーを行ったりしていますが、まだまだ足りていません。皆さんからもアイデアをどんどんいただきたいと思っています。

【質疑応答】

意見交換の後、質疑応答が行われ、地球温暖化対策の取組や市の公共交通機関に関する質問について佐藤議員が、体育館の空調設備に関する質問について中島副議長が回答した。

⑤ 議長から生徒へのエール

日向野議長から生徒に対してエールを贈った。

－発言概要－

生徒の皆さんが、栃木県のこと、住むまちのこと、学校のことを真剣に考えて、その思いを表現してくれたことを感謝します。

今の世の中は、自分たちが発言しても政治は変わらないという風潮が蔓延していますが、そのようなことはありません。今日いただいた声を聞きっぱなしにせず、県政に反映していくという思いで我々議員は参加しています。

皆さんも自分の思いを決して諦めず、時代・政治を動かすのは皆さんのような若い世代のエネルギーですので、そのお手伝いを県議会議員がさせていただきたいと思います。

(f) 生徒感想発表

代表生徒が県政ミーティングについての感想を発表した。

－発言概要－

自分たちで栃木県の未来を考え、それを議員に直接伝えることはとても新鮮で勉強になりました。また、議員の皆さんが私たちの未来を真剣に考えていることが実感でき、うれしく感じました。本日の経験を活かして自分たちで何ができるのかを考え、実行していきたいと思います。

(I) 閉会



(2) 第2回

ア 日 時 令和6年11月26日（火曜日）15時45分から16時35分まで

イ 場 所 県立宇都宮清陵高等学校 体育館

ウ 出席者 県立宇都宮清陵高等学校：生徒 1、2年生約360名

県議会：日向野義幸議長、中島宏副議長、大久保ゆみ議員、星雅人議員、
小池篤史議員、小菅哲男議員、五月女裕久彦議員

エ 内 容

(7) 開会

(イ) プログラム

① 正副議長、出席議員自己紹介

正副議長はじめ出席議員が自己紹介を行った。

② 県議会の役割・取組の紹介

中島副議長から、県議会の役割や取組についての紹介を行った。

④ 意見交換

テーマ「私が描く栃木県の未来」について、生徒（計7名）が意見を発表した後、議員がコメントを述べた。その後、質疑応答を行った。

－発言概要－

発表1 「栃木県の今後の未来について」

（生徒）

栃木県では、若者が県外に出て行かない政策や子どもを増やす政策がありますか。また、今後やっていきたい政策はありますか。

私としては、今後eスポーツのようなイベント会場を整備することや、オリオン通りに若者受けが狙えるような建物やイベントを誘致することがよいと思います。また、市町だけでなく県でも、子どもに関する手当を支給できる制度があるといいと思います。

（中島宏副議長）

本県の若者が県外に出ていなくても学ぶことができるよう、大学の誘致や専門学校の専門課程を増やすなどの教育の場を確保する取組、通勤・通学の環境改善に取り組んでいます。

また、県外に一度出た方も本県に戻りやすいように、東京に相談窓口を設けたり、奨学金の返還支援などに取り組んでいます。

さらに、eスポーツの機運醸成に取り組んでいますし、宇都宮市市街地の再開発、児童手当などの子育て支援にも国・県・市が連携して取り組んでいます。

発表2 「栃木の少子高齢化について」

(生徒)

栃木県でも少子高齢化や人口減少が年々進行していると思います。介護施設に入れない高齢者がいたり、小学生の数が減少したりしていると聞きます。そこで、栃木県では、このような問題に対応するためにどのように取り組んでいるか教えてください。

(大久保ゆみ議員)

栃木県は、合計特殊出生率が全国平均と比べても厳しい状況であることなどから、少子化対策緊急プロジェクトを取りまとめ、出会いの場づくりや第2子の保育料無償化などに取り組んでいます。

奨学金の返還支援などの制度もありますので、(県外に進学する方も)本県に戻ってきたいと思っています。

高齢化も深刻で、県や市町で様々な施策に取り組んでいますが十分でない面もありますので、議会として必要な予算を確保できるよう頑張ります。

発表3 「栃木県の文化遺産保護について」

(生徒)

栃木県には多くの文化遺産がありますが、県ではこれらをどのように保護・整備を行っていますか。私たちに身近な文化遺産としては、飛山城址跡や竹下浅間山古墳がありますので、特にこれら清原地区の文化財保護・整備について教えてください。

また、文化遺産の魅力を伝えるためには交通の便をよくする必要があると考えます。これからの政策として何か議論しているものはありますか。

(星雅人議員)

文化財保護法の改正によって、文化財は保存だけでなく活用することに注力するようになり、県は、令和3年に文化財保存活用大綱という大きな方針を策定しました。

宇都宮市は、LRTが開通して飛山城址跡に訪れる方が増える中、停留所から飛山城跡までの無料送迎サービスを行う実証実験に取り組んでいると聞きます。

文化財の活用については、地域の方々の思いが一番の起点になると思いますので、皆さんも地域の人と話し合って、アイデアを出していただきたいと思います。

発表4 「お米の高騰について」

(生徒)

地産地消を通して県産農産物の消費拡大、利用推進、学校給食の利用推進により、消費が人や地域社会の応援につながる大切なことだと思います。また、SDGsにつながる取組こそが、私が描く栃木県の未来です。

この夏、お米の価格高騰と流通からお米がなくなる現象が起きました。猛暑やインバウンドによる需要の増加、そもそも米を作る農家の減少などが原因と考えられています。

お米は国民の主食なので、安定的な供給と購入しやすい価格が求められると思います。これらに関してどのように対策しているのか伺います。

(小池篤史議員)

米の需給バランスを安定させるための取組ですが、ここ数年の消費量が減少して在庫が余ってしまう状況では、米粉にして加工品に使ったり、畜産と連携して米を家畜の飼料としたりすることで供給量を調整してきましたし、需要の面では地産地消が大切で、学校給食だけでなく企業にも社員食堂での利用を働きかけてきました。

また、今夏の猛暑が価格高騰の背景の一つと言われていますが、暑さに強い「とちぎの星」というブランド米の普及にも懸命に取り組んでおり、生産量も少しずつ増えてきています。

発表5「地震への備えについて」

(生徒)

最近メディアで、南海トラフ地震が発生すると報道されています。栃木県は内陸で、海沿いの県よりも水害の被害が少ないと教わっていますが、あくまでも推測です。私たちも備えなければいけないと思いますが、防災用品を準備するなど県民一人ひとりが備えるには限度があります。

栃木県では、今後どのような災害や被害が起こると推測し、それに対してどのように備えていますか。また、県民や他県にどのような支援をする予定なのか伺います。

(小菅哲男議員)

県では、地震、原子力災害、風雨、雪などの様々な災害に対し、これまでの教訓も踏まえて「栃木県地域防災計画」を策定しており、これに基づいて学校での避難訓練や消防団、地域の防災組織の活動など、市町・民間も含めて連携して防災に取り組んでいます。

他県への支援については国等を通じて支援の要請を受け、各自治体が調整を図った上で、県職員や消防士、警察官などが応援に行くなどの対応をしています。

災害発生時、まずは自分と家族の身を守り、人と協力し合うことを大切にしてください。

発表6「農業の未来」

(生徒)

現在、日本では、農業の後継者が不足しており、これは栃木県でも同様と考えます。その主な原因が、収入が低いだけでなく、世襲制度が根強く、新規参入が難しいからだと思います。食料自給力の低下や耕作放棄地の増加、地域経済への悪影響を加速させないためにも何か対策が必要と考えますが、どうでしょうか。

(五月女裕久彦議員)

日本では、農家の7割を高齢者が占めており、農業は大変な状況です。そのため、県では関係団体・機関とともに、新規就農者の募集や農地のマッチング、スマート農業でコストを下げる取組を進めているほか、農畜産物の輸出にも力を入れています。

栃木県の農家が作ったおいしい農畜産物を皆さんにしっかり食べていただいて、農家の応援団になっていただければ幸いです。

発表7「LRTの課題と希望」

(生徒)

LRTを中心とした街づくりを目標として、JR宇都宮駅西側への延伸の計画をしていますが、西側延伸でどのような街づくりを目指しているのか教えてください。また、現在もLRTを利用する人が多いと感じますが、西側に延伸することにより、通勤・通学時間帯が大混雑すると予想しますが、対策はありますか。

(中島副議長)

LRTは約1年前に開通し、JR宇都宮駅の西側にも延伸されれば、都内への通勤や県体育館跡地での整備が検討されている県立美術館・図書館等の施設への連絡、日常の通勤通学に活用できて便利になりますし、CO2削減の効果もあり、宇都宮市では、歩いて楽しめる街づくりを進めています。

また、オリオン通りや県庁・市役所の周辺、駅前なども含めて街を整備しながら、LRTで東武線に乗り換えて浅草までつながるというような、広域で整備するまちづくりによって、皆さんの利便性を高めていくということについて、これら検証していくことになります。

【質疑応答】

意見交換の後、質疑応答が行われ、カラオケやゲームセンターにおける16歳未満の年少者への入店規制の質問について星議員が、物価高騰対策の質問について日向野議長が回答した。

⑤ 議長から生徒へのエール

日向野議長から生徒に対してエールを贈った。

－発言概要－

皆さん一人ひとりが、栃木県のこと、喫緊の課題である少子高齢化のことなどについて、真剣に考えて発言していただいたことに感謝します。さらに、解決の糸口まで考えていただいたことには、大変感激しました。

最近では、若い方の政治離れが進んでいて、自分一人が発言しても政治は動かないと諦めてしまう方が多く見受けられます。しかし、いつの時代も、時代を変える、政治をつくる原動力となるのは、若い皆さんのエネルギー・行動です。

今日皆さんから聞いた意見を聞きっぱなしにしないことを、参加議員は誓っていきたいと思います。

議員は、今を良くすることが仕事ですが、皆さんが生きていくこれからの未来に責任を持つということも大切です。その思いを共有しながら、ここで暮らせてよかったと思ってもらえる栃木県を一緒につくっていききたいと思います。

今日をきっかけに、政治や行政に関心をもっていただきたい、そして、皆さんの未来に期待したいと思います。

(㊦) 生徒感想発表

代表生徒から出席議員に対して感想を発表した。

－発言概要－

高校生でも分かりやすく教えていただき、大変勉強になりました。

私は、街づくりやLRTについて発言したところ、市街地の再開発があるという説明がありましたので、私としても経緯を見守っていきたいと思います。

貴重な時間をありがとうございました。

(㊧) 閉会



3 県民への情報発信等

(1) 県議会広報

ア 県議会公式X（旧ツイッター）での情報発信（計7回）

イ 県議会広報番組「県議会ハイライト」での放送 2月2日17:30～18:00（一部）

ウ 県議会広報紙「県議会とちぎ」への掲載 NO.155号（12月1日発行）に写真を掲載

※NO.156号（2月2日発行）で特集予定

(2) メディア

ア 下野新聞 7月10日朝刊、11月27日朝刊

イ 毎日新聞 11月27日朝刊

4 アンケート結果（回答 さくら清修高等学校195 宇都宮清陵高等学校230）

問1 議会の取組の説明について

説明は分かりやすかったですか。

回答項目	さくら清修高校	宇都宮清陵高校
分かりやすかった	43.59%	44.35%
やや分かりやすかった	29.74%	23.04%
普通	22.56%	29.13%
やや分かりにくかった	3.08%	0.44%
分かりにくかった	1.03%	3.04%

問2 意見交換について

栃木県の将来や政治への参加について、興味・関心は高まりましたか。

回答項目	さくら清修高校	宇都宮清陵高校
高まった	35.90%	40.44%
やや高まった	50.26%	41.30%
変わらない	13.85%	18.26%

問3 県議会及び県議会議員について

県議会及び県議会議員を身近に感じることができるようになりましたか。

回答項目	さくら清修高校	宇都宮清陵高校
感じられるようになった	34.36%	39.13%
やや感じられるようになった	48.72%	36.96%
変わらない	12.82%	16.96%
あまり感じられなかった	3.08%	2.61%
感じられなかった	1.03%	4.35%

問4 県議会議員を身近に感じられるための情報について

県議会議員について、このような情報を知れば、より身近に感じられるという情報を教えてください。

回答項目	さくら清修高校	宇都宮清陵高校
趣味	41.30%	47.60%
得意なスポーツ	9.24%	16.83%
好きな食べ物	12.50%	8.17%
好きな芸能人	12.50%	9.62%
好きな漫画	19.02%	13.46%
その他	5.44%	4.33%

自由意見（抜粋）

さくら清修高等学校

- このミーティングに参加して政治が少し身近になった。日々の困りごとに真摯に向き合ってくれていると期待ができた。今はまだ選挙権を持ってないが、政治を任せられる人を考えて投票できるように、これからは自主的に政治について学び、知りたいと思った。
- 県議会について、あまり知る機会もなく知ろうとしたこともなかったが、県政ミーティングを通して、議員が思ったよりも親しみやすいことや、栃木県のことを誰よりも考えていてくれていることを感じる事ができた。
- 県政へ興味をもつきっかけになった。これを機に県の取組について調べ、県を良くするために自分でも何ができるかを考え、実行していきたい。
- 「どうせ意見しても議会でなにもされない」と思っていました。が、議会で慎重に将来性などを議論しているということを今回の県政ミーティングで感じました。
- 県政ミーティングでの議論を聞いていて、議会が何かの解決策を出すには時間がかかることを理解した。そして、そのスピード感が自分と合わないと感じた。予算が決まっていて、その中でどこに予算を使うかなど考えなければいけないことは理解しているが、そのスピード感では若い人は政治から離れてしまうと思う。

宇都宮清陵高等学校

- 議員がフレンドリーな方が多くて、楽しくミーティングに参加できました。
- 議会を通して栃木県の改善のためにたくさんのことが決められ実行されていることが分かった。また県民が過ごしやすい環境にしようと努力していることも分かった。
- 今回の県政ミーティングで、議員が県民と向き合っているのを知りました。
- 今回の県政ミーティングで、私は政治への見方が変わりました。
- 県がどのような政策を行っているのかを知ることができました。議員と議論を行える機会はめったにないため、意見などが聞くことができて良かったです。
- 実際に目の前で議員と生徒の討論を聞くことができ、地域に関する取組や今後の栃木県の課題について私も関心が高まりました。
- 政治に対しての知識が高まり、選挙にちゃんと参加しようと思いました。
- 栃木県の未来のためにどのような取組をしているのかを聞くことができ、県をより良くしていこうという想いが感じられました。
- ネット等の活字で見る情報とは異なる「思い」を感じることができました。

5 参加議員の感想

(1) さくら清修高等学校

- 土屋議員 生徒の皆さんと直接話げできたことで、県議ををより身近に感じてもらえたと思います。私自身も提案やご意見を聞かせていただき、大変参考になりました。貴重な経験をさせていただきありがとうございました。
- 池上議員 昨今の若い人は、政治に関して興味や意見がないと言われているが、身近な話題に関しては、様々な意見を持っていることが分かりました。やはり、問題の解決にはスピード感がとても重要であること、また、解決まで至らなくても、丁寧な説明と対応が大切と思いました。
- 佐藤議員 高校生から生の意見を聞く良い機会となりました。地域公共交通の維持や学校設備の改善、多様性の在り方、子育てなど、高校生が未来を危惧していることを知り、私もより一層議員活動を通して若者の意見を傾聴したいと思いました。
- 沼田議員 高校生目線の県政への関心、まちづくりへの思いや情熱を強く感じました。とちぎの魅力発信やあるべき姿にも思いを強く持たれていて、頼もしくも感じました。
- 小林議員 今回の意見交換会を通じて、高校生が県議或は政治に対して興味を持ち、身近に感じてくれたことを嬉しく思います。今後も若い世代が県政に関心を持ち、積極的に参加できるよう、引き続き情報発信や交流を大切にしていきたいと感じました。
- 板橋議員 真面目に取り組む姿勢が感じられました。
質疑はもう少し踏み込んでも良かったのではないかと思います。

(2) 宇都宮清陵高等学校

- 大久保議員 高校生の声を直接聞くことができ良かったです。もっと様々な高校とつながれたらと思います。生徒の皆さんには、本会議や委員会など、県議或にもぜひ傍聴に来てもらいたいと思います。
- 星議員 高校生の関心事、いただいた前向きな意見に議会全体を通して答えることができる場となったので、県議或を身近に感じてもらうことができたのではないかと思います。
- 小池議員 高校生が、本県が抱える様々な課題をととても深く考察していることに驚きと喜びを感じました。懸命に問題意識を訴える姿に本県の未来への希望が持てましたし、刺激にもなりました。
- 小菅議員 生徒たちは、地域や行政、農業、食糧、様々な課題に対して問題意識を持っていると思います。県議或は高校生にとって未知の世界だだと思いますので、これからも開催を継続することで様々な好影響が望めると思います。
- 五月女議員 真剣に議論する生徒たちが非常に印象的でした。特に、日本の農業の課題について的確な指摘をいただき、大変驚きました。今後も若い人の期待に応えられるよう頑張りたいと思います。

6 まとめ

本年度の県政ミーティングは、県立さくら清修高等学校と県立宇都宮清陵高等学校で開催したが、参加した議員一同、生徒と直に意見交換ができたことを非常に有意義に感じた。また、多くの生徒に「県議会及び県議会議員を身近に感じることができるようになった」と感じていただけたところであり、開催の目的を果たすことができたと考えるところである。

これからの時代を担う若者のエネルギーが、世の中を変える大きな原動力になることから、県民により身近で開かれた県議会を目指し、こうした県議会と若者との交流を図る取組を継続し、深化させていくことが、本県議会にとって、そして県民にとっても非常に重要と考える。

次年度以降の開催に当たっては、議員はもとより、学校関係者や生徒からの声などを踏まえ、より効果的な内容となることを期待したい。

(参考) 実施経過

令和6年

- 4月 宇都宮地域、塩谷・南那須地域の高校に開催意向の照会、開催校2校を選定
- 5月 出席議員照会、決定
- 6月14日 本会議に県立さくら清修高等学校への議員派遣の議案上程（議決）
- 7月9日 県立さくら清修高等学校において開催
- 10月16日 本会議に県立宇都宮清陵高等学校への議員派遣の議案上程（議決）
- 11月26日 県立宇都宮清陵高等学校において開催

令和7年

- 2月12日 議会運営委員会において開催結果報告